

4. 管内初のエイビアリー鶏舎に対する衛生指導

大分家畜保健衛生所

○（病鑑）安達恭子・細谷一恵・吉田周司・渡邊直人

【はじめに】エイビアリーは平飼い方式の一種で、多段式ケージフリーの鶏舎を指す。ケージ方式と比較し鶏の行動が多様化され、多段式のため従来の平飼形式より単位面積当たりの飼養羽数が多く、アニマルウェルフェア(AW)の向上と生産性維持の両立が可能な飼養施設として注目されているが、個体管理や衛生面で改善の余地がある。今回、管内初のエイビアリー鶏舎を導入した養鶏農場が新規参入し衛生指導を実施したので報告する。

【農場概要】エイビアリー1鶏舎（2万羽）とバタリー1鶏舎（8万羽）で10万羽を飼養する採卵鶏農場。AWに配慮した飼養管理を積極的に実施し、2025年5月J-GAPを取得。

【指導内容】エイビアリーの飼養衛生管理について以下の3項目を重点的に検討、指導。

- （1）特定家畜伝染病対策：高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)防疫対応計画を立てる際に、鶏の行動範囲が広く立体構造がある鶏舎の特徴から捕鳥作業が困難になると判断。廃鶏出荷方法を参考に捕鳥方法を検討し、ポイントを整理した。
- （2）疾病の管理：鶏舎の構造上、鶏が糞と接触する機会が多く鶏コクシジウム症の発症リスクが高いと分析し、農場、管理獣医師、家保でリスクを共有。令和7年7月に死亡羽数が増加し、鶏コクシジウム症と診断したものの早期発見、早期対応により鶏卵の出荷を停止することなく短期間で終息した。
- （3）飼養衛生管理基準遵守のための研修および情報提供：J-GAP取得に向けた推進会議の中で時間を確保し、情報提供を実施。飼養衛生管理責任者だけでなく従業員に対して飼養衛生管理基準遵守のための研修および情報提供を実施した。

【成果】HPAI発生対応時における捕鳥の重要ポイントは、円滑な防疫対応のため動画等を活用し農場と県職員に共有済み。疾病管理については、発生リスクの高い疾病を関係機関で共有することで、早期発見・早期対応が可能となり損失の軽減につながった。また、従業員に向けて継続的に飼養衛生管理基準遵守のための研修および情報提供を行い、個々の従業員の衛生管理意識を高めることで農場全体の衛生レベル向上を目指した。このことは、2024-2025シーズンHPAIの発生に係る疫学調査報告書で示された『飼養規模が大きいことがリスク要因の一つ』に対するリスク低減の一助になると考えており今後も継続していく。

【まとめ】畜産を取り巻く情勢については、動物福祉に関することやそれに付随する新たな飼養方法、気候変動による好発疾病の変化など、今後、大きな変化があると予想される。我々は家保職員として日々研鑽を積むことで、変化に素早く対応し、常に適切な衛生指導が実施できる体制を整えていきたい。